

知能の転換点としての2026年

生成AI「東大・京大首席合格」の深層分析と次世代推論モデルの社会的波及効果

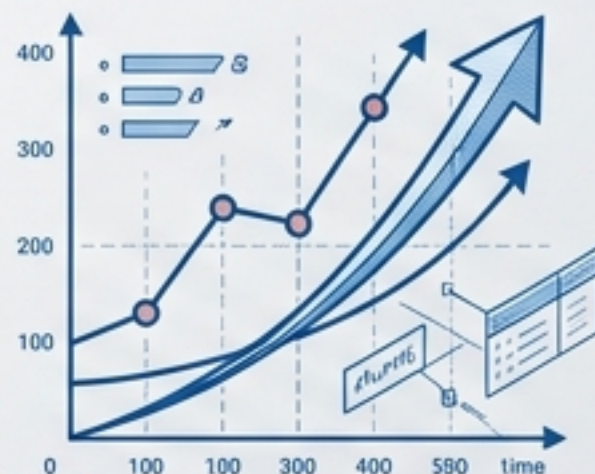
2026年4月27日 — 人類の知能の定義そのものを揺るがす歴史的なマイルストーン

Executive Summary: 「AIは受かるか」から「AIはどれほど賢いか」へ



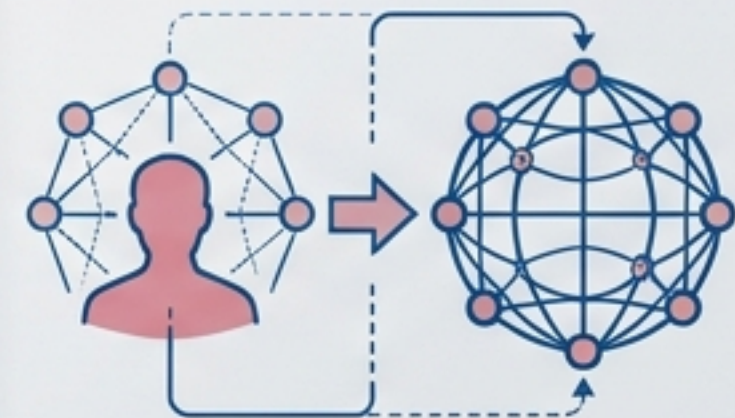
The Milestone (特異点の突破)

最新AI「ChatGPT 5.2 Thinking」が、日本最難関の東大理三（医学部）および京大医学部において、人間の「合格者最高得点（首席）」を劇的に超越。



The Speed of Evolution (非線形的な進化)

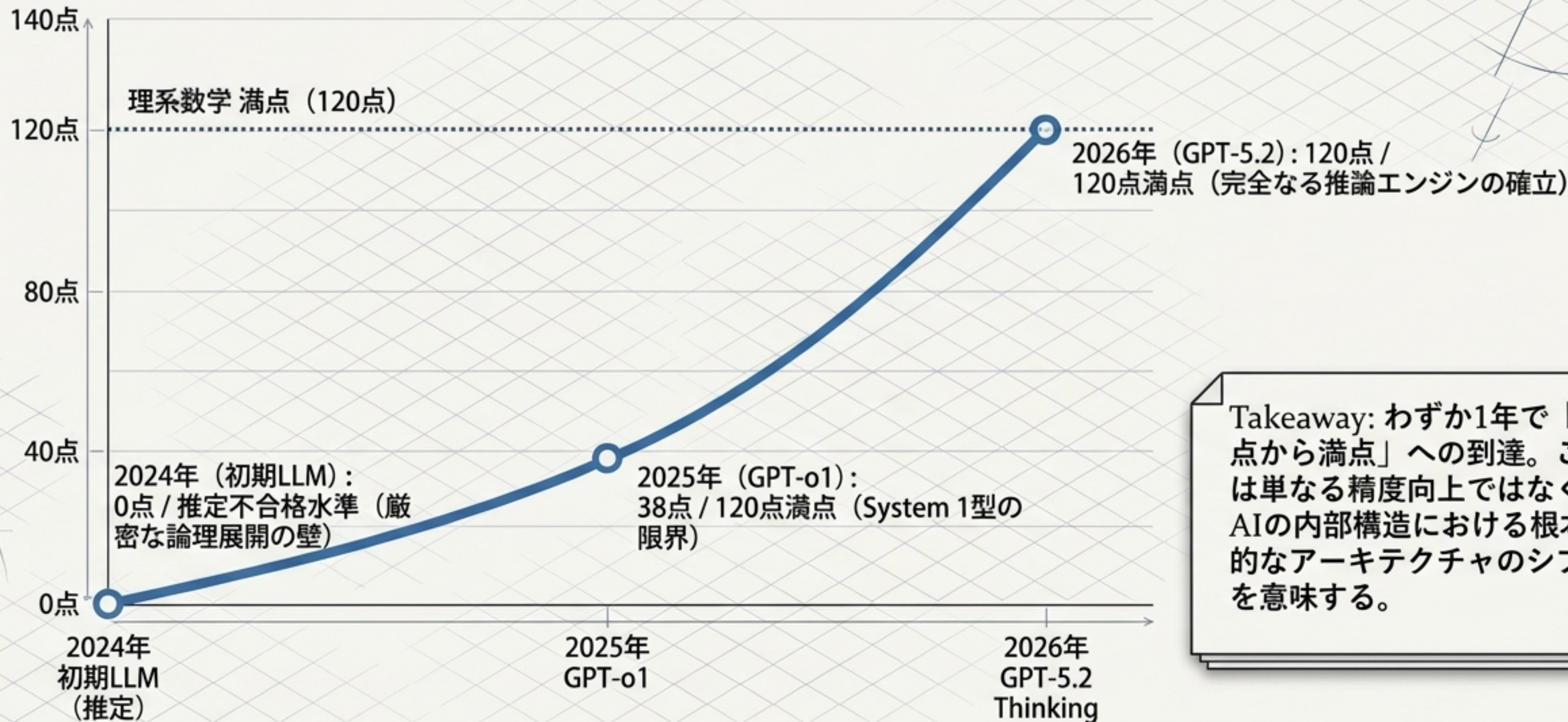
わずか2年前（2024年）は「全科類不合格」。そこから推論能のブレークスルーを果たし、東大数学で「満点」を記録する異次元の進化速度。



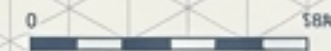
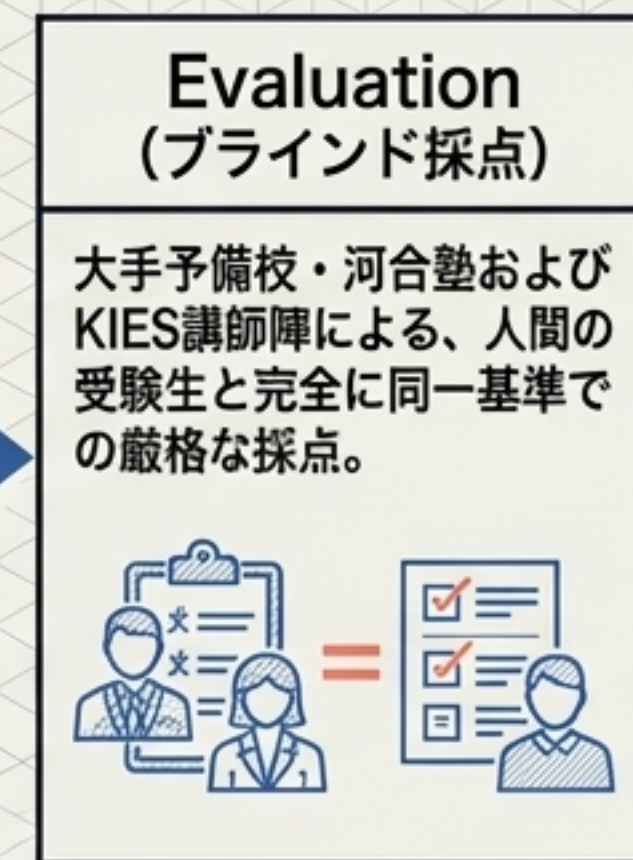
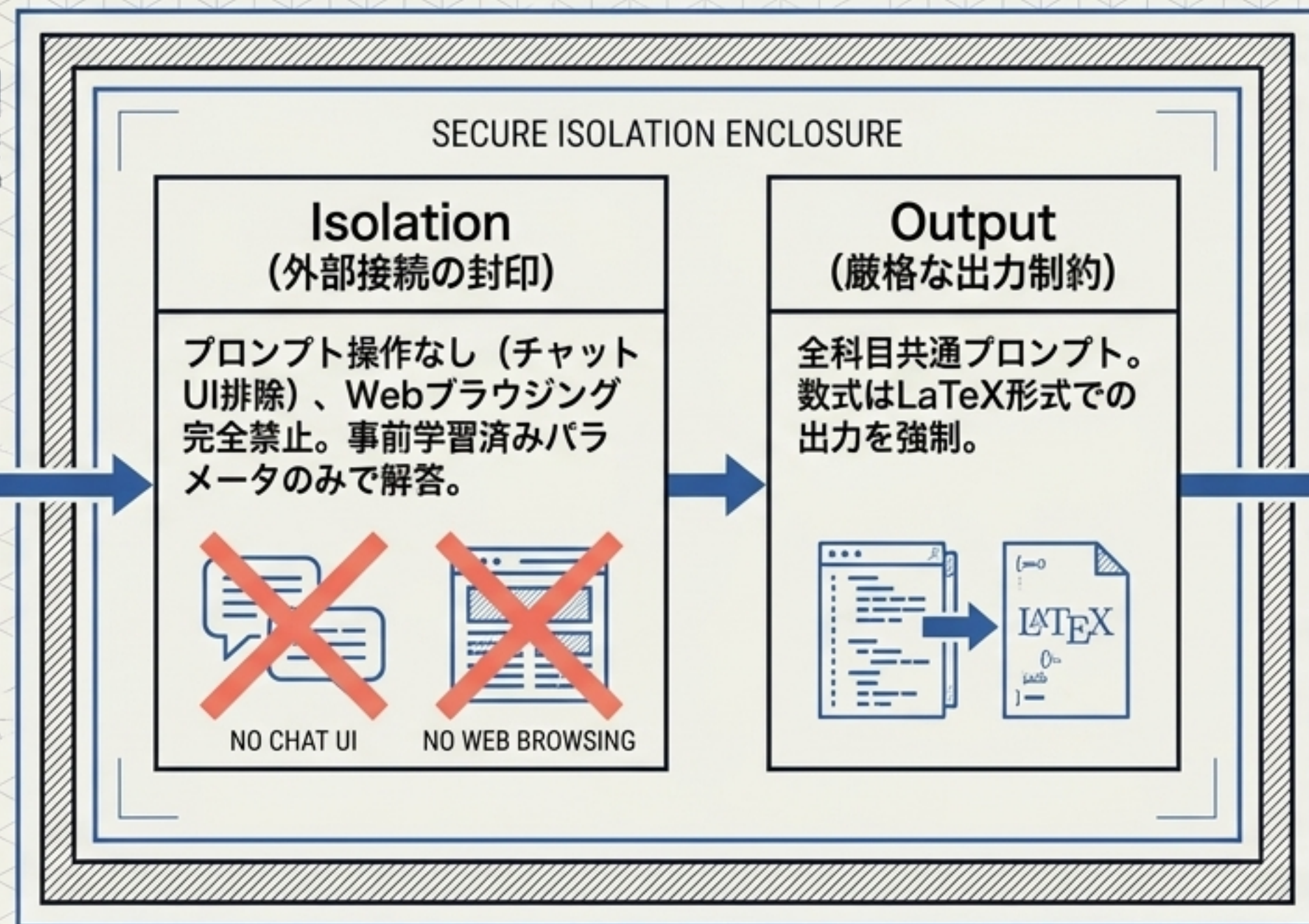
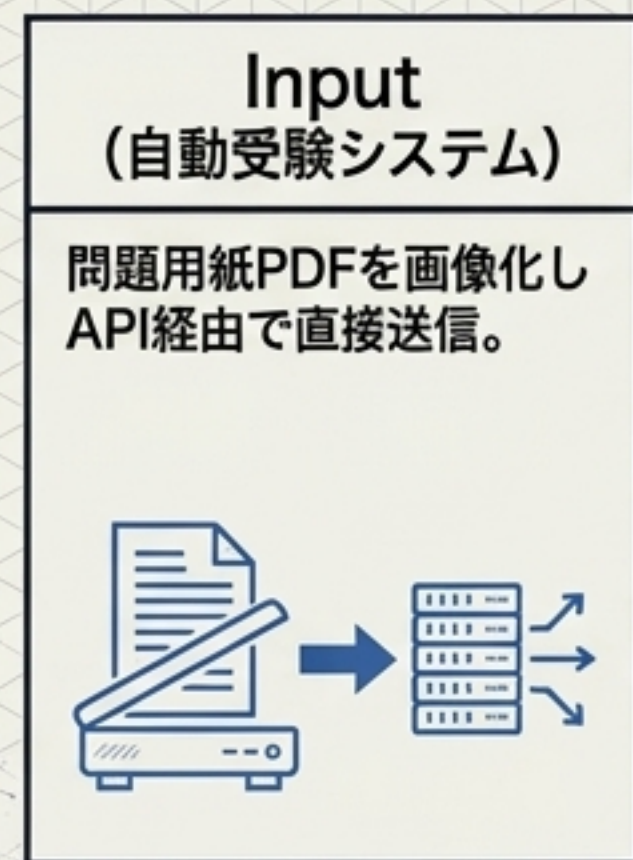
The Macro-Implication (不可逆のパラダイムシフト)

単なる試験結果ではなく、人間の11倍の速度・1%未満のコストで実務を遂行する「AI社員（AX）」の台頭と、教育・労働市場の根本的再定義の証明。

進化の非線形性：数学的推論におけるブレイクスルー

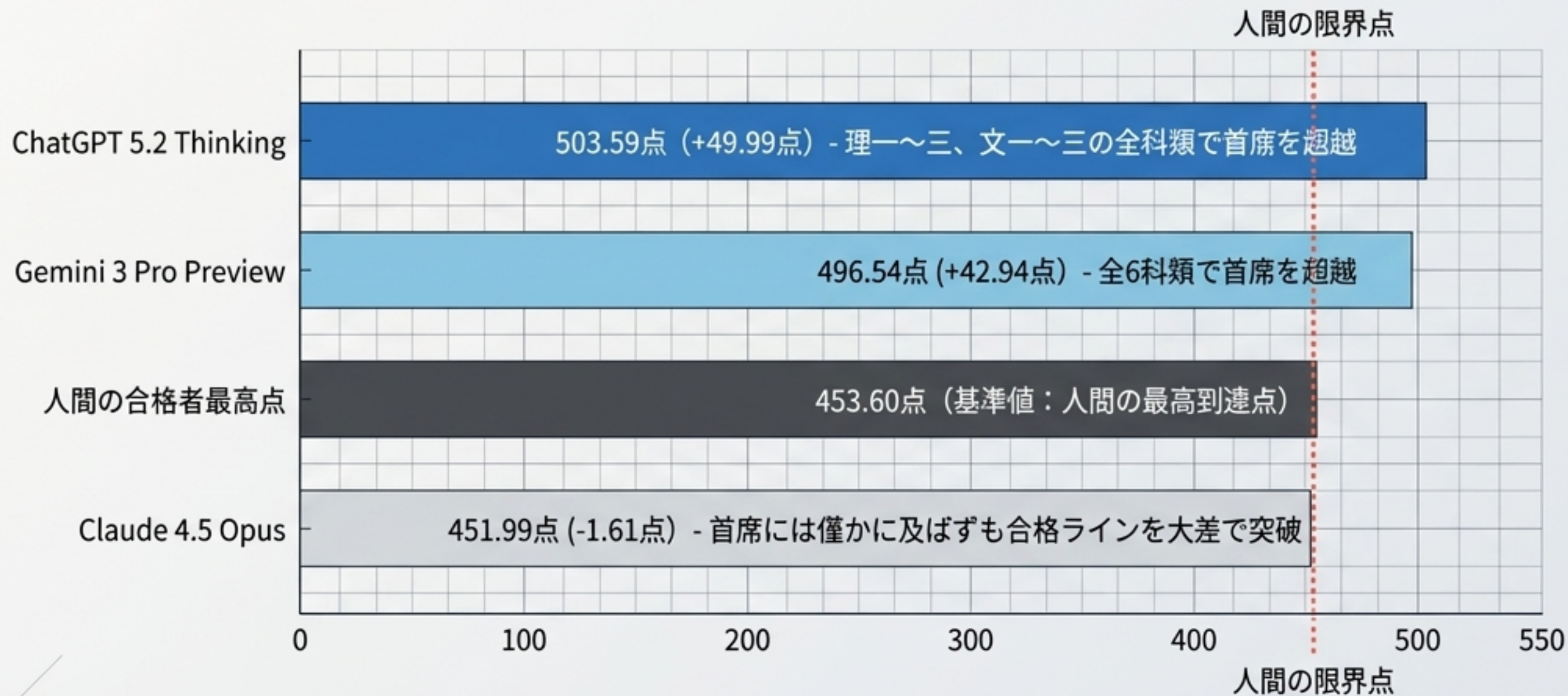


厳密な方法論的担保：人為的介入の完全排除



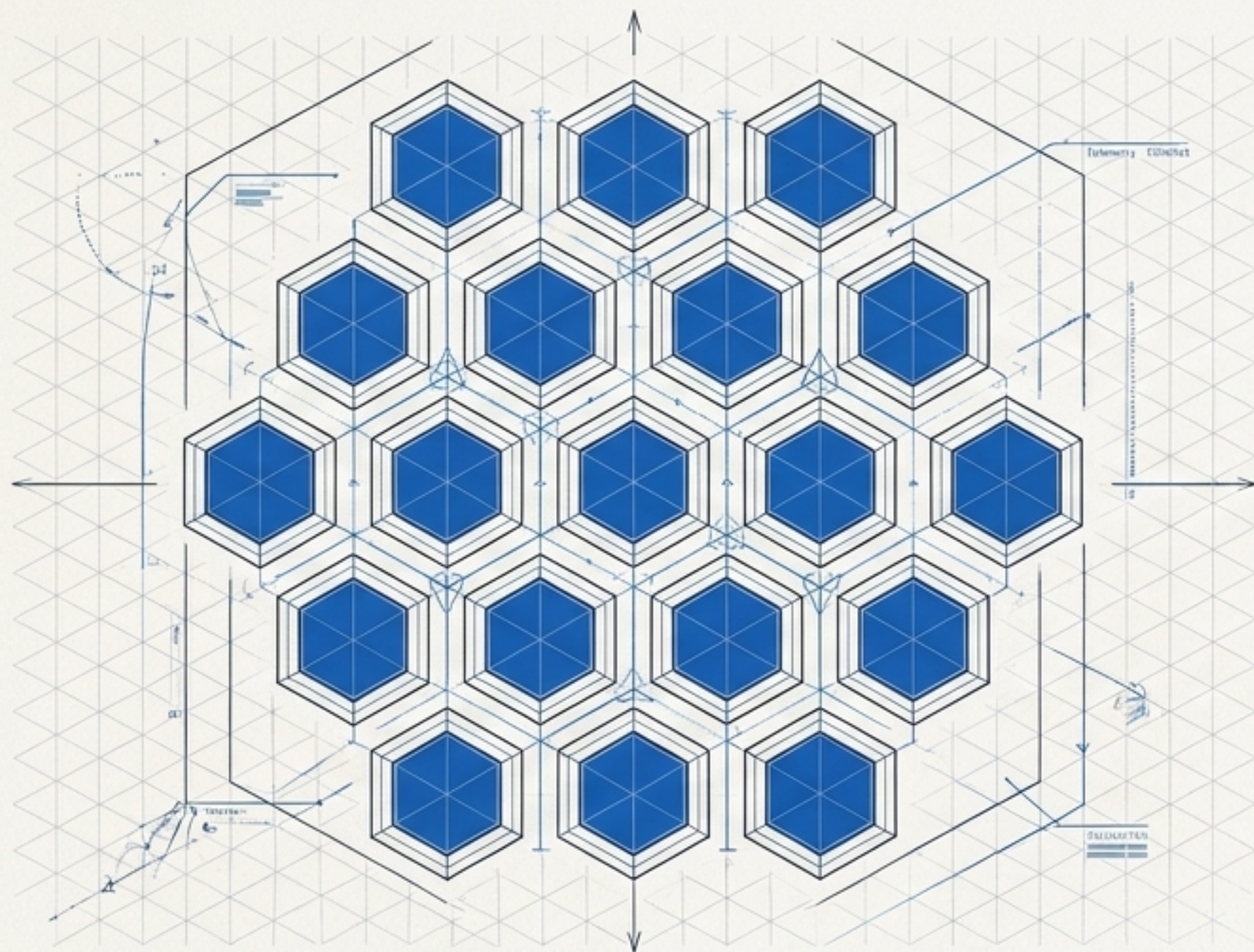
AIに対する「下駄」を一切許さない、真の論理構築・推論能力の客観的検証。

The Scorecard: 人類の限界点を超越した特異点 (東京大学 理科三類)



Key Insight: 文系 (文科1～3類) においても最高点 (434点) を凌駕する計452点を取得。複雑な資料読み取りや言語処理でもトップエリートを圧倒。

汎用知能の証明：京都大学 全19学部・学科の完全制覇



医学部医学科 最高点

ChatGPT 5.2
(1176.38点) vs 人間最高点
(1098.25点)

約80点の圧倒的差。

制覇率

ChatGPT 5.2: 19/19 学部 (100%)

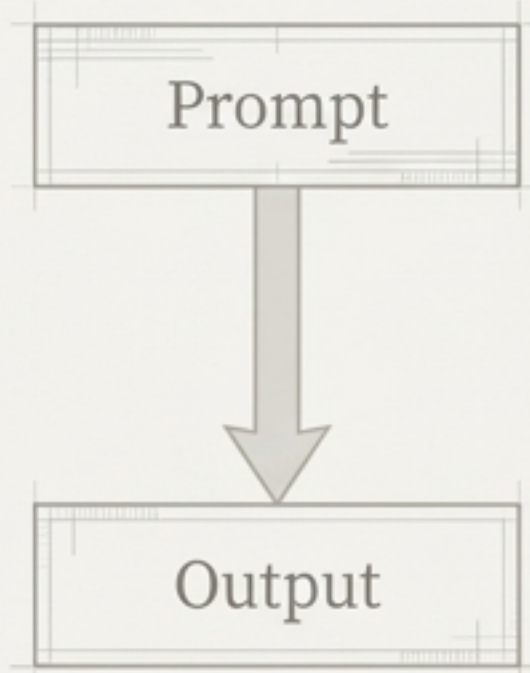
Gemini 3 Pro: 18/19 学部

Claude 4.5: 14/19 学部

特定領域のエキスパートシステムではない。あらゆる学問領域に適応する「汎用人工知能 (AGI)」の基盤能力が実用レベルで確立された決定的な証拠。

アーキテクチャのパラダイムシフト：「Thinking プロセス」の解剖

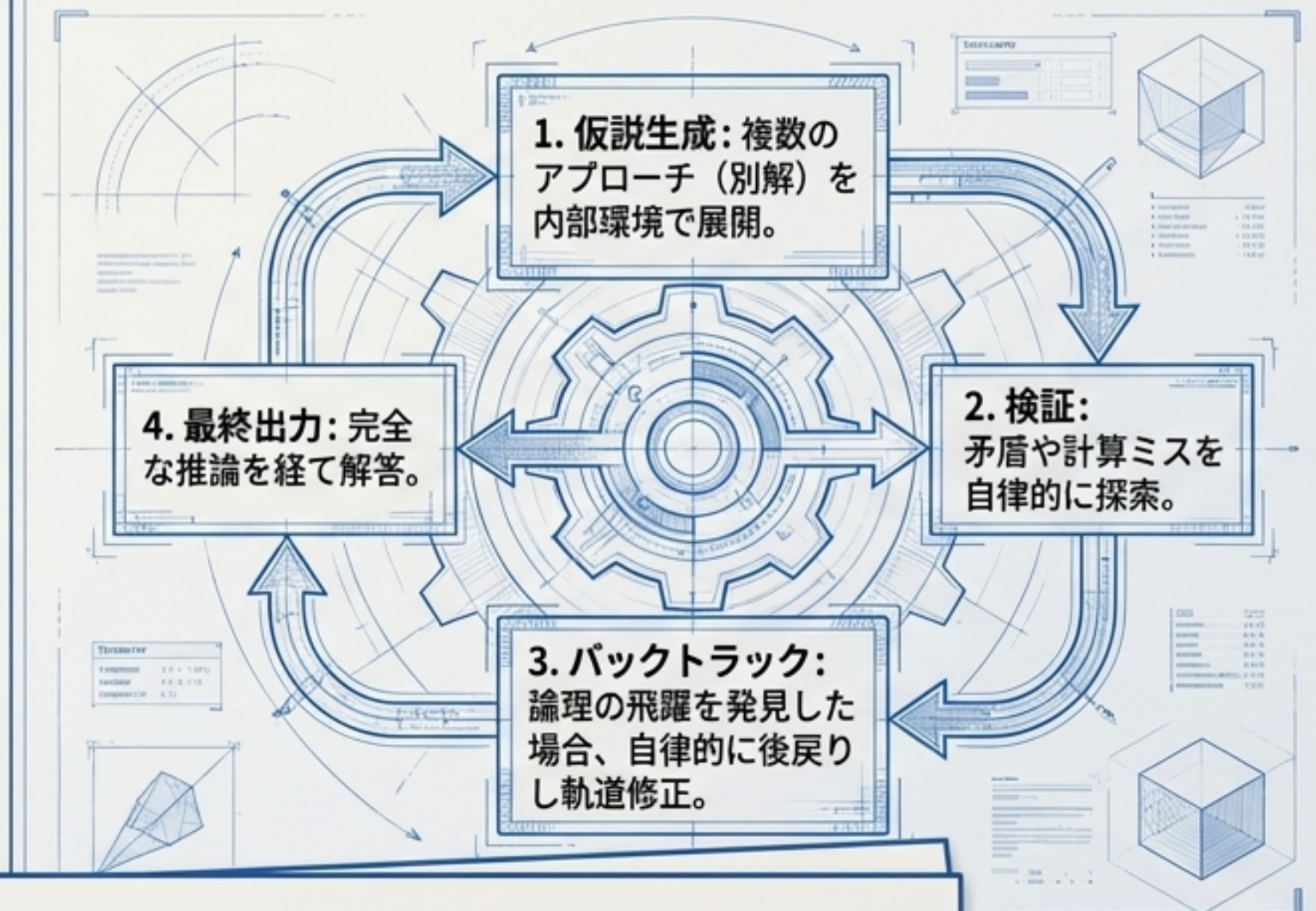
Old Paradigm (System 1)



確率論的テキスト生成。

プロンプトに対して即座に最も自然な単語を予測（直感型）。厳密な数式変形に脆弱。

New Paradigm: GPT-5.2 (System 2)

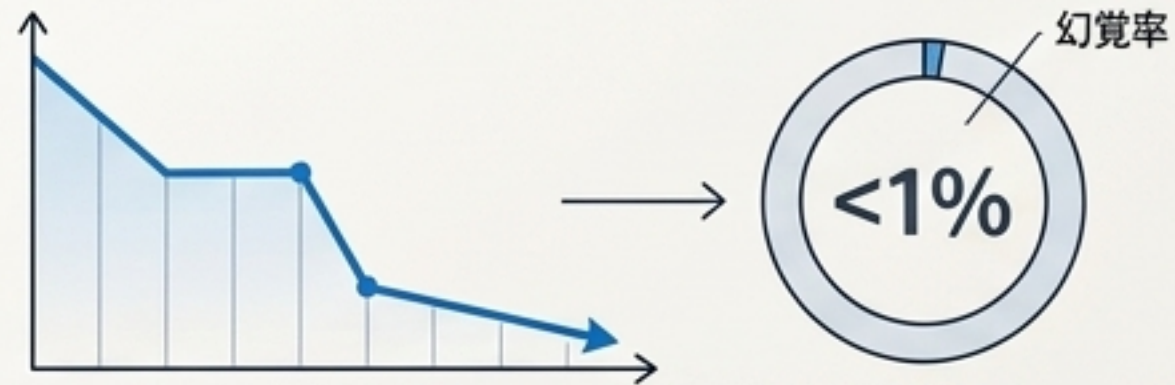


この「自律的な試行・改善プロセスの組み込み」こそが、東大数学における「満点」という離れ業を可能にした中核技術である。

入試を超えて：実務代行モデルとしての圧倒的経済合理性

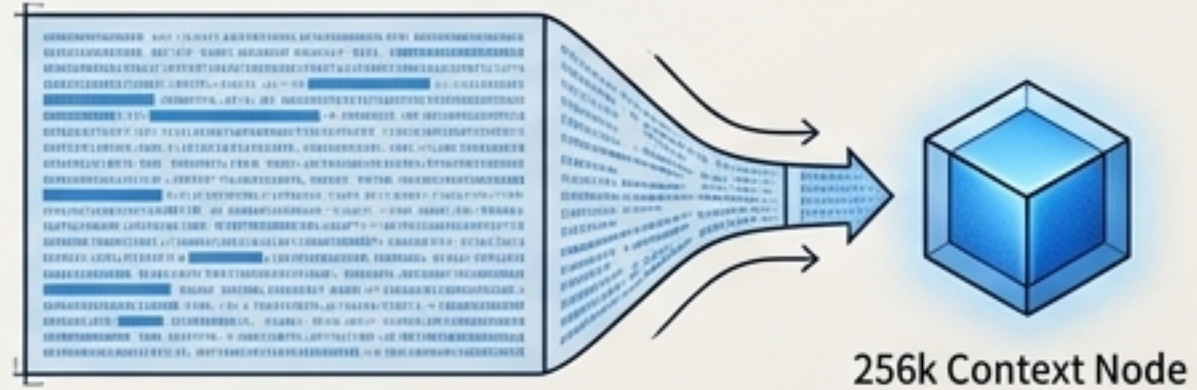
ハルシネーションの劇的削減

誤情報の生成が前世代比で38%減少。ドメイン別評価（ブラウジング有）では幻覚率「1%未満」。



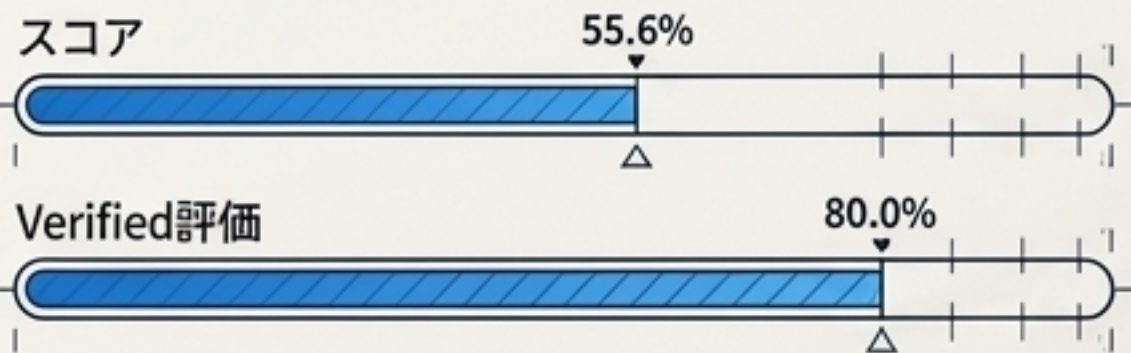
256kコンテキストウィンドウ

約26万語（数十ページの入試冊子全体）を一度に統合し、離れた設問間の伏線をほぼ100%の精度で把握。



SWE-Bench Pro（ソフトウェア開発）

スコア55.6%（Verified評価で80.0%）。コードの理解から修正・検証まで一貫して自律遂行。



GDPvalベンチマーク（専門実務）

人間の専門家と同等以上の成果を出しつつ、「11倍の速度」かつ「1%未満のコスト」で業務を完了。

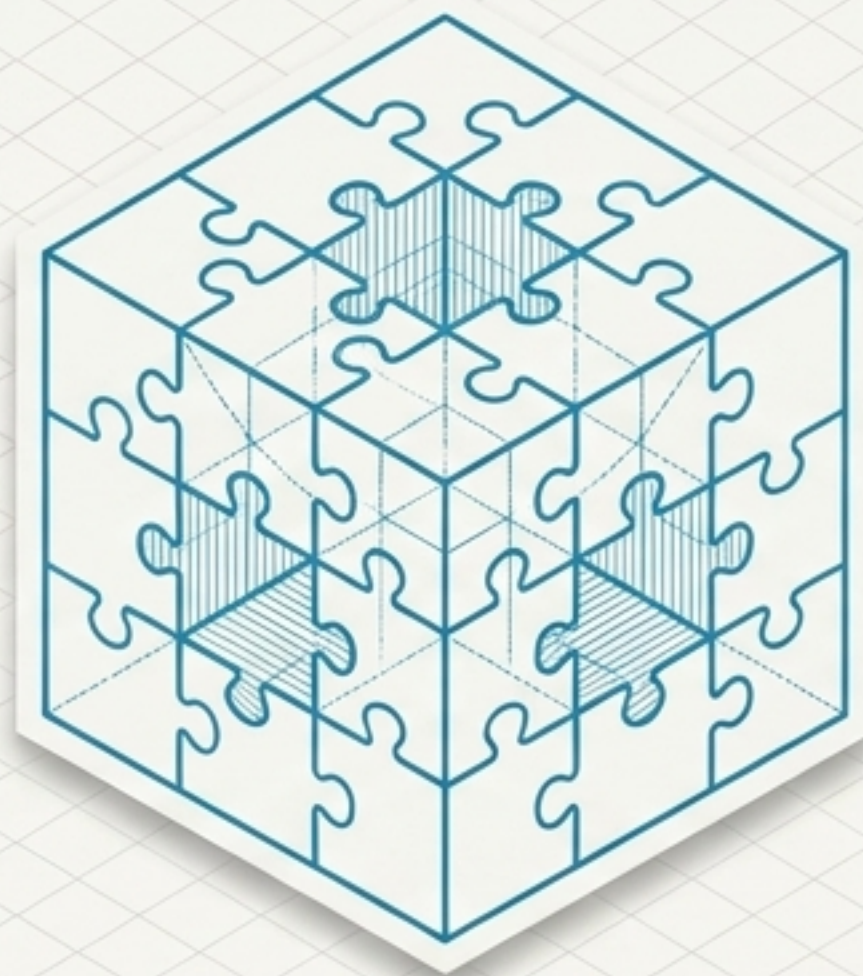


認知の非対称性（専門家採点講評）：AIの「圧倒的優位性」



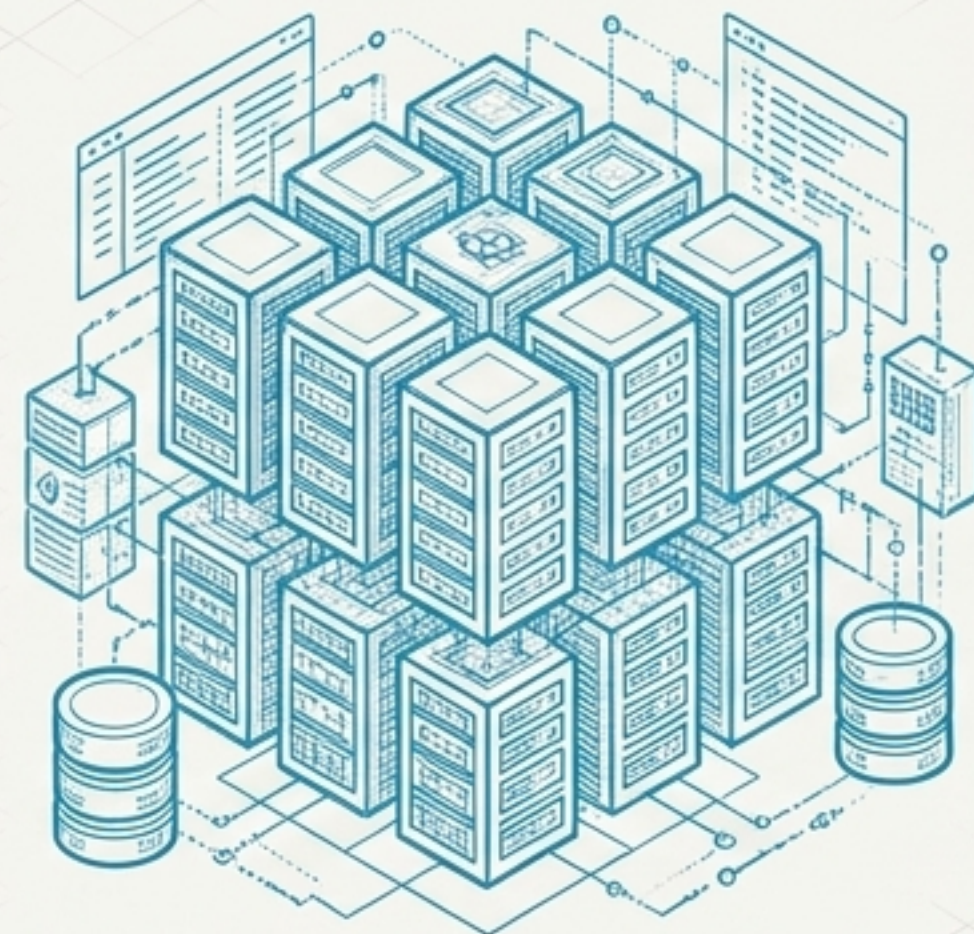
圧倒的な情報処理速度と知識基盤

人間離れした速度と、膨大かつ網羅的な知識の引き出し。日本史・生物などの知識要求科目で余裕の合格水準。



論理・推論の完全性

数学・理科における論理飛躍のない完璧なプロセス構築（満点の原動力）。

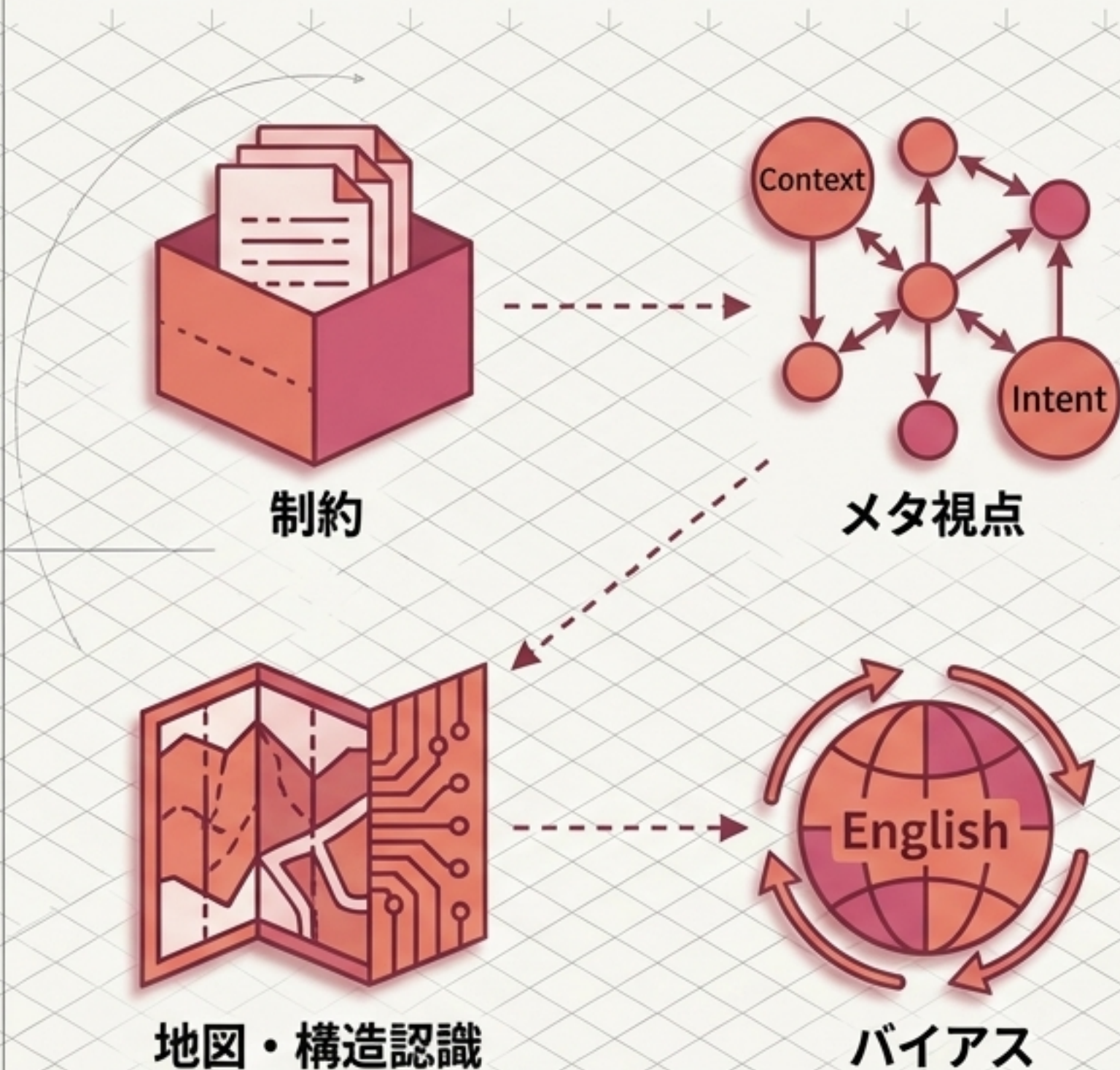


高度なマルチモーダル認識

PDFのレイアウトを深く理解。複数行に折り返された下線部の範囲を正確に特定するなど、極めて高い視覚的文脈理解力（特にGPT-5.2）。

Context: 英語試験でも9割を獲得。言語的処理の正確性は極めて高いレベルで安定している。

認知の非対称性：残存する「非言語的・物理的ボトルネック」



空間的・構造的理解のノイズ

化学の構造式、グラフ、地理/歴史の地図など「非言語的・空間的」な情報の認識に課題（特にClaude 4.5に顕著）。人間が直感する図形的対称性をデータ行列として処理する際のノイズ。

物理的制約の遵守失敗

「指定された字数に厳密に収める」「解答欄の枠内に収める」というルールの逸脱。日本語の文字数とAIの「トークン数」の概念的ズレに起因する制御難。

文化的・慣習的バイアス

物理などで「英語圏の物理学の慣習」を無意識に優先。学習データが英語圏文献に依存していることによる、日本独自の学術的文脈へのローカライズ課題。

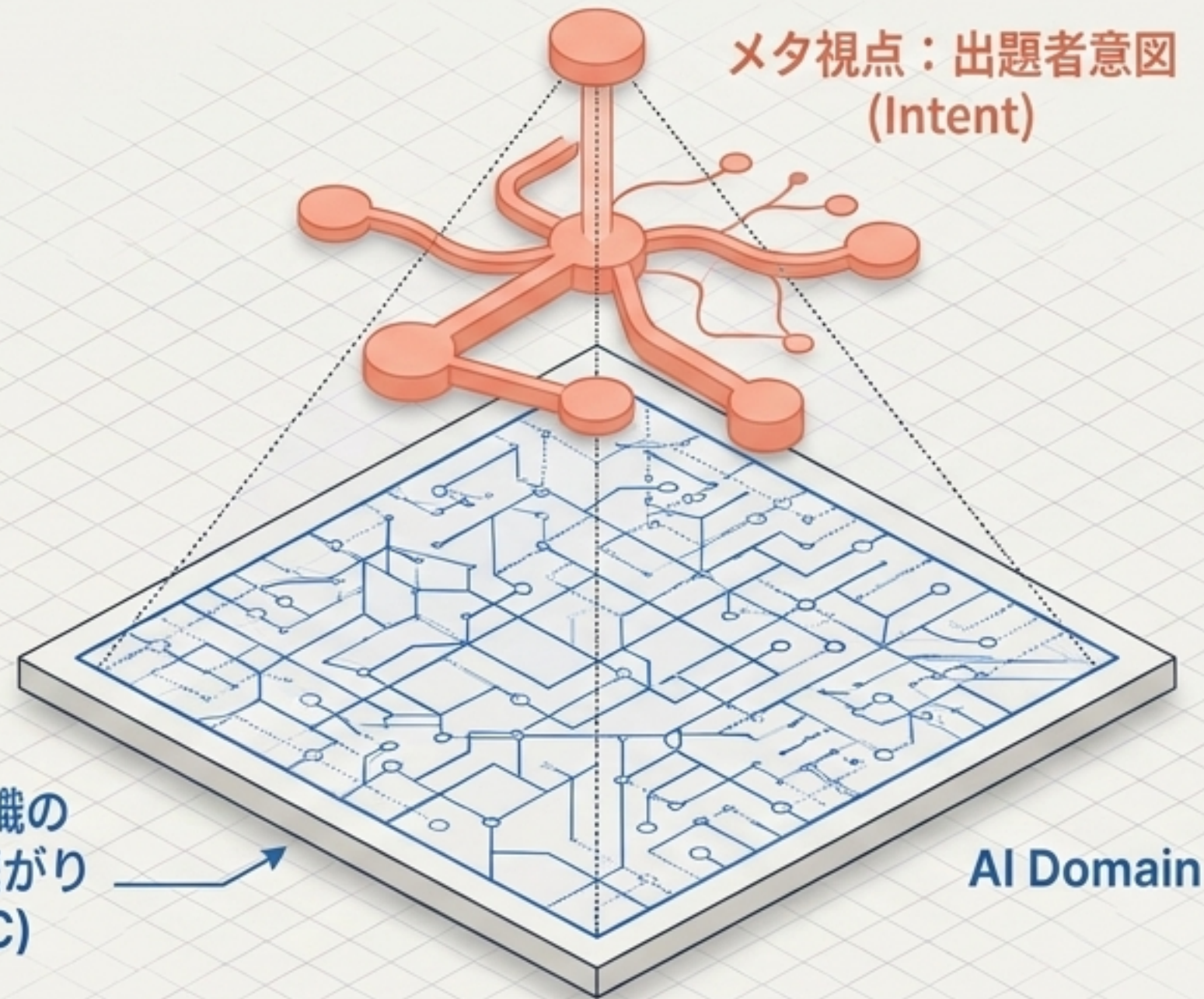
決定的な死角：「メタ認知」と出題者意図の欠落

問題点

世界史などの長文論述問題における得点率は「2.5割」に留まる。

膨大な歴史的事実を知りながら、限られた字数での「情報の取捨選択」と「因果関係の提示」に失敗。

膨大な知識の
平面的な繋がり
($A=B=C$)



原因：メタ視点の欠落

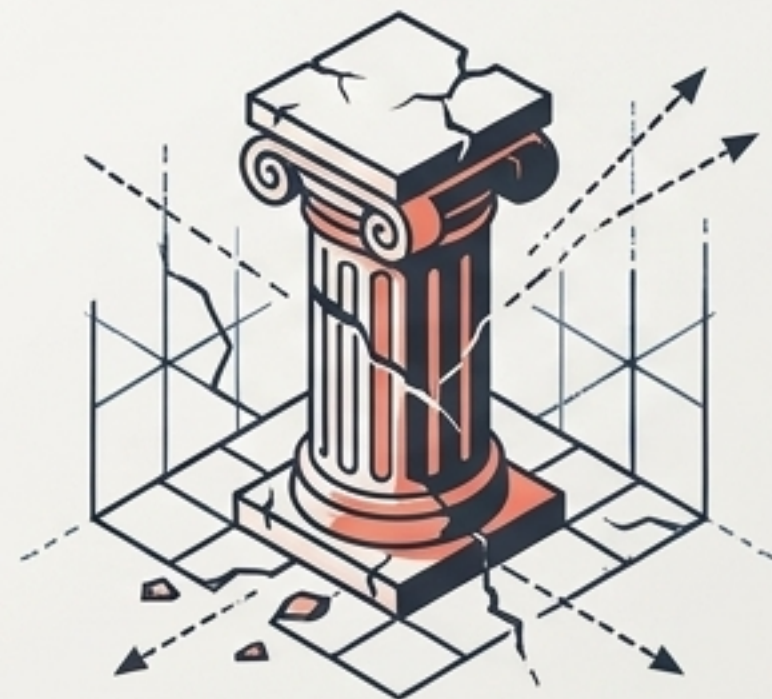
人間が自然に働かせる「出題者はなぜこの時代設定でこの問いを出したのか」というメタ視点AIには欠落している。

文脈全体からの言葉の再解釈に苦勞し、辞書的な翻訳や事実の羅列に終始する傾向。

Insight: 知識の量は人間を圧倒しても、「文脈の意図」を汲み取る力は数学的推論力に比べて著しく遅れている。

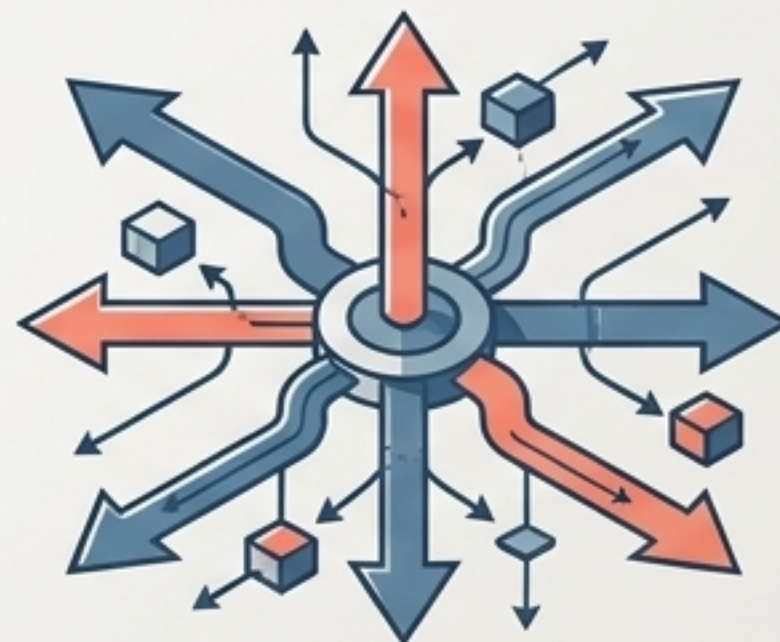
教育パラダイムの崩壊と再構築：「知識蓄積」から「目的創出」へ

The Old Paradigm (崩壊)



- 評価基準: 難しい問題を解く、大量の知識の記憶、素早く正確な解答。
- 現状: AIにより完全にコモディティ化。志望理由書などもAI生成により均質化し、書類による適性選抜は機能不全へ。

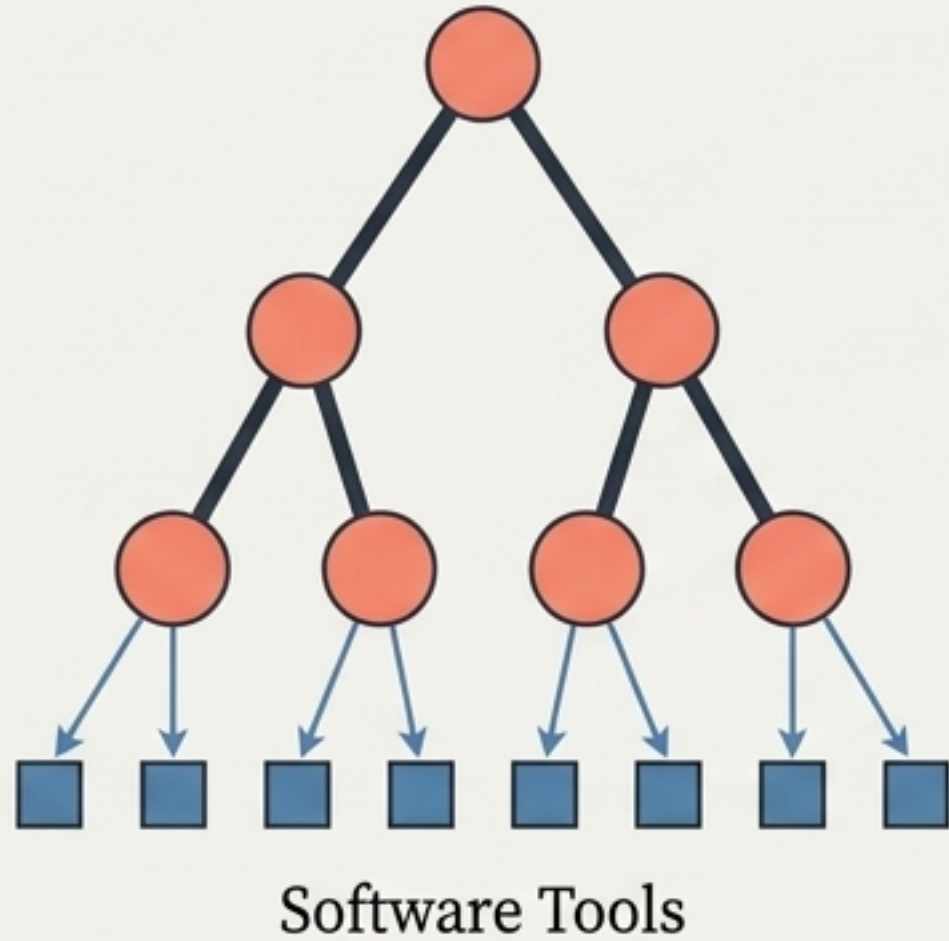
The New Paradigm (再構築)



- 新たなスキル: AIに対する「目的の共有」と「倫理的・社会的判断」。
- プロンプトの進化: 中間手順を指示する「思考の代替」から、ビジョンを共有しルートを設計させる「デリゲーション（思考の丸投げ）」へ。
- 評価のシフト: 知識量に依存しない「真の思考力」、対面でのコミュニケーション能力、現場での即興的な課題解決力（対面面接の回帰など）。

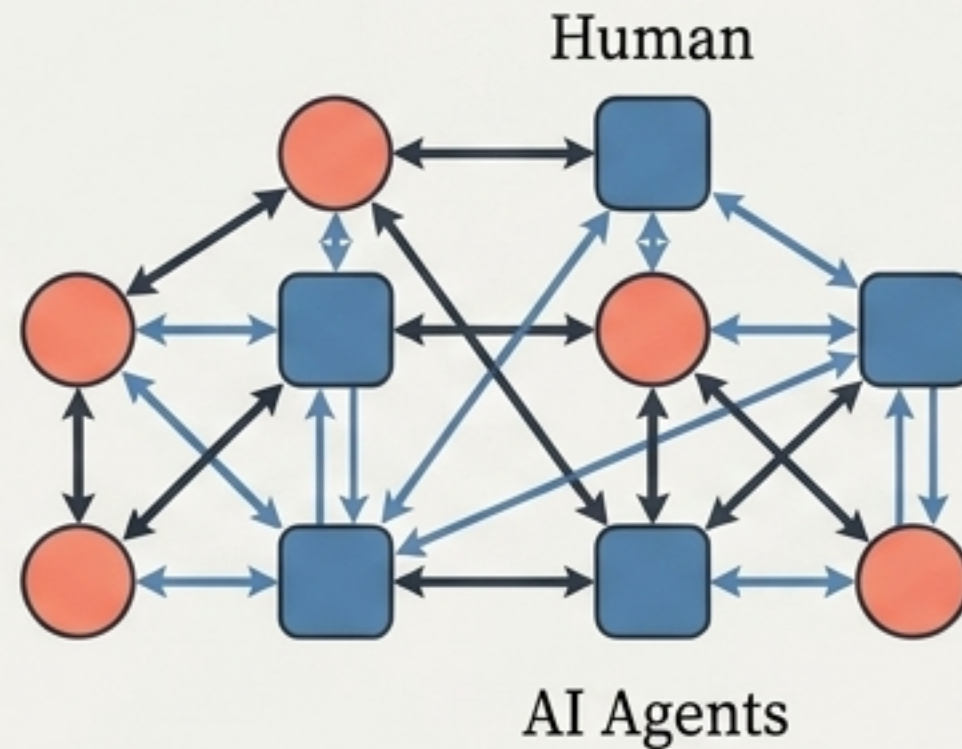
労働市場の再定義：AX（AI Transformation）と「AI社員」の台頭

Old: Tool



人間が作業を外注する関係

New: Team Member



システム連携や権限設計を共に担う「チームの一員」へ

The Shift:

AIは「目先の効率化ツール」ではなく、10~20年後を前提とした組織の抜本的再設計 (AX) の中核である。

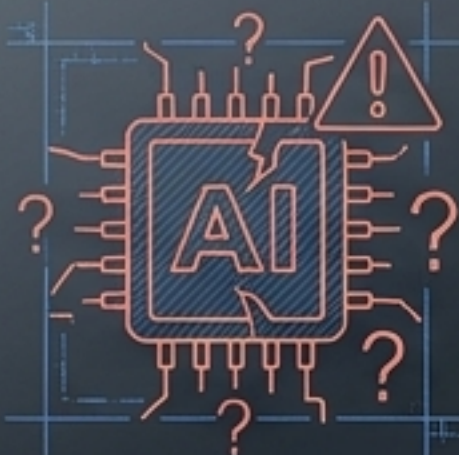
実例:

LifePrompt社のAIプラットフォーム「AxMates」に象徴される、AIエージェントの本格化。

The New Workflow:

AIが自律的に業務を進め、人間はその進捗と最終的な方向性を監督・指揮する。DXに次ぐ次世代の産業革命。

ガバナンスの急務：高度知能の社会実装に伴う負の側面



ブラックボックス化と倫理的エラー

自治体の児童保護判定において、深刻な虐待ケースをAIが「低レベル」と誤判定し導入断念。



情報漏洩とコンプライアンス

SNS等の普及による、社員の無意識な機密情報・顧客情報の入力・拡散リスク。



法的責任と権利侵害

俳優/声優の顔・声の無断生成（ディープフェイク）。AI法改正（事業者への罰則含む）や法務省の有識者検討が急加速。



地政学リスク（AI冷戦）

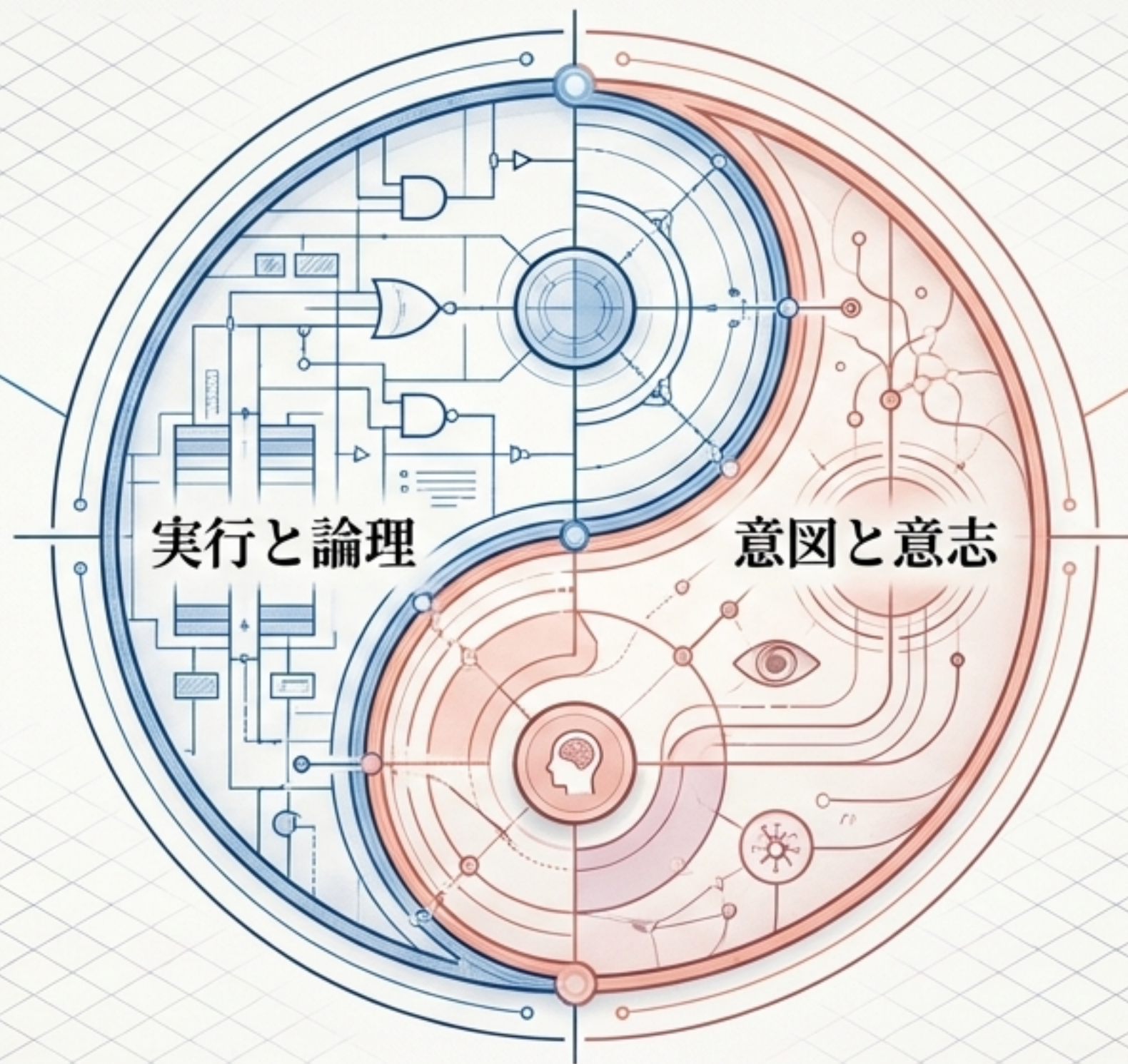
ステルス無人機へのAI搭載（中国）や、米中によるデータセンター建設競争（AI覇権争い）、容疑者との不穏な対話によるOpenAIへの提訴。

Synthesis: AIとの共進化における「真の知性」の再定義

The AI Domain (Cyan)

圧倒的な情報処理、論理的推論、膨大な知識の統合、コスト1%・速度11倍のタスク遂行。

役割：社会インフラとしての「解答マシーン」。



The Human Domain (Magenta)

メタ認知、倫理的境界の設計、出題者（社会）の意図の推測。

役割：膨大な選択肢から「どの問いを解くべきか」を見極め、社会に対する目的を提示する。

Closing Insight: AIが「答え」を瞬時に出す時代において、我々に残された最大の価値は、システムに対して倫理的・人間的目的を提示する「意志 (Will)」そのものである。